

開催概要

○主な開催内容

- ・ 前回までのデザイン調整WGの振り返り
- ・ 大宮GCSプラン2020（案）深度化方針の説明
- ・ フリーディスカッション

【まちの質や魅力を持続する仕組みについて】

- ①公共空間の柔軟な使い方について
(祭り時/災害時/日常時)
 - ②公共空間と都市機能の連動について
(まち全体の経済効果の創出)
 - ③上記を実現するための公/民の役割について
(エリアマネジメント)
- ・ 総括



○日時・参加者

日時	12月1日（火）10時00分～12時15分
場所	大宮区役所2階201、202会議室
参加者数	32名

主な意見概要

●まちづくりガイドラインに関するご意見

①公共空間の柔軟な使い方について（祭り時／災害時／日常時）

○多様な利用を考慮した空間づくり

- ・歩行者空間・交流空間・防災空間の多様な機能を合わせ持った空間づくりが重要。
- ・交通広場の段差解消やデッキ・シェルターの高さの工夫をすることで、日常時のバリアフリー対応と、（山車の通行など）お祭り時の利用しやすさを考えた空間・設えの検討が重要（デッキの高さ・配置、歩道の段差、可動式プランターの活用等）
- ・駅前を中心に、小規模でも様々なイベントが生まれると良い。

○快適で持続的な利用ができる空間づくり

- ・デッキによって地上が暗くなることのないようにしてほしい。どこにでもあるようなデッキがある駅前ではなく、大宮の個性を大事にした駅前であってほしい。
- ・緑化は高木のムクドリの被害も考慮した検討が必要。
- ・屋根をかけるのであれば、閉鎖的なデザインにならないようにしてほしい。また、維持管理にコストがかからないようにする必要がある。

○柔軟な使い方を可能とする仕組みづくり

- ・道路や公園など規制が多い場所の利用申請を簡略化するなどの使いやすさが必要。
- ・交通広場は、土日・平日やピーク・オフピークのダイヤの工夫でバスバース数を減らせないか。

○災害時の備えとしての空間づくり

- ・大宮駅は地域の備えだけでなく、広域的な拠点としての備えも必要である。
- ・地下空間は浸水対策、排水対策等にしっかり対応する必要がある。
- ・民間事業者や鉄道事業者との地域にふさわしい連携方法を検討する必要がある。

主な意見概要

●まちづくりガイドラインに関するご意見

②公共空間と都市機能の連動について（まち全体の経済効果の創出）

○求められる機能を考慮した空間のあり方

- ・ 駅前の機能、まち全体に求められる機能を整理する必要がある。（駅前や周辺街区での避難場所の使い分け、場所に応じた案内や情報提供、備蓄倉庫の確保等）
- ・ 災害時に建物が利用できる設備やルール、仕組みづくりが必要。
- ・ トイレ等の施設は、災害時・日常時どちらにも利用しやすくあることが必要。

○大宮らしさの創出への配慮

- ・ 地域をつなぎ、いかし、育てるような公共空間を目指したい。
- ・ コストに留意しながら、大宮らしい駅前空間を創出してほしい。
- ・ 失われつつある 商都であった本来の「大宮らしさ」を大事にしたい。
- ・ 商業地としての魅力 + 氷川神社の存在の特徴づけが必要。（緑化の工夫等）

○開発街区同士の連携による人の流れの強化

- ・ 各開発街区で地下の連携動線を確保し、地下レベルの人の流れを強化できると良い。

○利便性の高い縦動線の配置や機能確保

- ・ 縦動線は、各階の縦の接続確保と、縦動線へ連絡する横の接続確保が重要。
- ・ 駅前広場に面する建物の 縦動線は広場に面するように設け、日常時の移動しやすさを確保するとともに災害時の避難空間になると良い。
- ・ 縦動線にはwi-fiの整備や災害時に情報が得られるような仕組みが必要。

○これからの都市づくりに求められる戦略・取組み

- ・ エリアマネジメントの財源として 都市空間を活用した広告戦略を検討すべき。
- ・ エネルギー改革を踏まえた取組みを考えていけるとよい。
- ・ トータルで混雑を抑える交通戦略（車両・歩行者動線、駐車場配置等）が重要

主な意見概要

●まちづくりガイドラインに関するご意見

<p>③上記を実現するための公/民の役割について（エリアマネジメント）</p>	<p>○マネジメントが必要な事項</p> <ul style="list-style-type: none">・ <u>公共空間の利用と維持管理、費用負担等のルールづくり</u>が必要（日常的な管理、イベント時の利用、災害時の備え、植栽の管理等）。・ <u>お祭りや小商いの文化の存続支援・継承</u>が必要。 <p>○主体の必要性</p> <ul style="list-style-type: none">・ <u>住民が参加でき、イベント等を継続的に企画・実施する主体</u>が必要。・ 様々な事業の動きに合わせて、<u>行政と連携・役割分担して展開</u>する必要がある。 <p>○市民の声の反映、事業連携を促す仕組みの必要性</p> <ul style="list-style-type: none">・ デザイン調整ワーキングのように<u>住民の意見を伝え、反映できる場が必要</u>である。・ <u>駅や周辺の整備が連携できるよう、議論や調整をする場</u>が必要である。・ <u>取組みの情報発信力の向上</u>が必要である。・ <u>市民の声を聴き、人間味のあるまちづくりを展開</u>することが重要である。
<p>④その他（今後の進め方について等）</p>	<p>○今後の検討のフィードバックの必要性</p> <ul style="list-style-type: none">・ <u>PTの議論をスムーズに市民へフィードバック</u>して欲しい。 <p>○これまでのWGでの意見反映</p> <ul style="list-style-type: none">・ <u>ガイドラインや各個別事業の図において反映された部分を示す必要がある</u>のではないか。ガイドラインは総花的だが、<u>事業全体で骨太の方針が必要</u>ではないか。・ <u>バリアフリー等は、概念を示すだけでなく、実態に即した検討</u>を行ってほしい。 <p>○今後の検討の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地域の歴史、文化など<u>これからのまちづくりにつなげる情報の見える化</u>が必要。・ <u>駐車場と駐輪場を一体的に扱って検討すべき</u>である。・ 各PTがバラバラに検討するのではなく、<u>連携する場が必要</u>なのではないか。

各班及び意見用紙のご意見

テーブル毎の記録：Aグループ

①公共空間の柔軟な使い方について（祭り時／災害時／日常時）

- ・ 公共施設は災害を見据えてつくる必要があるが、地域の備えだけでなく、大宮は広域の位置付けを視野に入れる必要がある。
- ・ 駅ビルや広場の位置が決まらないと具体的な議論は難しい。
- ・ JRとしてどのような協力方法があるのか、地域の目指す姿や取組みを考慮して検討したい。

②公共空間と都市機能の連動について（まち全体の経済効果の創出）

- ・ 開放的かつ機能的な広場が必要。地域をつなぎ、いかし、育てるような公共空間を目指したい。
- ・ 駅の重要性（交通の要 バックアップ機能 駅の役割）を理解しつつ、駅だけでなく街全体について考える必要がある。
- ・ 例えば災害時、駅は一時的滞留、旧区役所は長時間滞留に対応できるなど、役目をうまくバランスする必要がある。
- ・ 商都大宮というが、かつてのイメージは無く、現在はナショナルブランドしかない。本来の「大宮らしさ」を大事にしたい。

③上記を実現するための公/民の役割について（エリアマネジメント）

- ・ 地域と技術検討のやり取りができつつあるので、今後エリアマネジメントに活かしていくといい。
- ・ ようやく議論のベースができてきたが、まだまだ広報等の情報発信力が必要。
- ・ エリアマネジメントという言葉はわかりづらいので意味を伝わりやすい言葉にしてほしい。
- ・ 駅と地域とが別々の議論になっている。駅の集客力を街に活かす観点から、合わせて議論する場が必要。直接話せる場がないと、思いが伝わらない。
- ・ 行政は担当が変わる。人材や責任が持続するような教育や伝達の仕組みが必要。
- ・ 理想形を実現するには費用が必要である（とくに地下は費用が高い）。費用分担の考え方を議論する必要がある。
- ・ 今は想いを具体化する段階にある。デザイン調整ワーキングの場は議論のかすがいになりつつある非常に大事な場なので是非継続して欲しい。
- ・ 大宮（西口周辺を例示）は人間味がない街だと感じる。地域密着型、地域の魅力引出し型の店舗や活動によって、もっと大宮の人の思いを反映させる必要がある。
- ・ 心のデザインを目指すような、人間味があるエリアマネジメントが必要なのではないか。

テーブル毎の記録：Aグループ

④その他（今後の進め方について等）

- ・デザイン調整ワーキングでの意見をPTで受けて検討する、ということだがフィードバックに時間がかかるように感じる。
- ・PTの議論がデザイン調整ワーキングにスムーズにフィードバックされるような仕組みやシステムにして欲しい。
- ・大宮GCSプラン2020（案）におけるPTの議論を、いったん市民にきちんとフィードバックして欲しい。
- ・バリアフリー等は既存概念の形だけ作って終わりにしないで、現実の利用状況を計画者がしっかりと把握して現実的な対応を行って欲しい。
- ・机上の空論にせず、地に足の着いた技術検討やプラン作成を進めることが重要である。
- ・地域の歴史、文化などこれからのまちづくりにつながる情報の見える化が必要である。
- ・色々なことにやさしい街になるといい。

テーブル毎の記録：Bグループ

①公共空間の柔軟な使い方について（祭り時／災害時／日常時）

- ・ 道路や公園など規制が多い場所の利用申請を簡略化するなどの使いやすさが必要。
- ・ 交通広場や既存の歩道切下げ部は段差を解消することで、日常的の車いす利用者のバリアフリーへの配慮とともに、お祭り時に山車が通りやすいなどの使いやすさへの配慮するなどの工夫をしてほしい。
- ・ 植栽は高木だとムクドリの被害がある。まつりの山車の通行に支障がある可能性もある。
緑化はプランターなどで、柔軟に空間を利用できる配慮をする必要がある。
- ・ デッキやシェルターは、山車の通行に支障がない高さ・配置が必要である。
- ・ 駅前に屋根をかける際は、維持管理にコストがかからないようにする必要がある。金沢駅のアトリウムなどは維持管理大変か。
屋根は閉鎖的な空間にならないように、開放的なデザインとした方が良い。
- ・ 屋根をかけるのであれば、東京ビックサイトのシェルターのように動線部のみに掛かる屋根でも構わない。
- ・ 交通広場は、平日・休日やピーク・オフピークのダイヤの工夫でバスバース数を減らせないか。

②公共空間と都市機能の連動について（まち全体の経済効果の創出）

- ・ 駅前広場に面する建物の縦動線は広場に面するように設け、日常時の移動しやすさとともに災害時の避難空間になると良い。
- ・ 縦動線にはwi-fiの整備や災害時に情報が得られるような仕組みが必要。
- ・ 災害時用の備蓄倉庫は地下に設けられないか。広場に近い方が良い。
- ・ トイレ等の施設は、災害時・日常時どちらにも利用しやすくあることが必要。
- ・ 3.11の時はバス待ちの人々が多く座り込んでいた。駅前には、災害時の避難とバス待ちの人々が混乱なく利用できる必要がある。
必要な機能や案内などの情報は、求める人に届くように、人が集まりやすい場所に配置する必要がある。
- ・ 災害時の避難場所は、広場よりも屋根があり建物内の広い空間である方が良い。
- ・ 西口の建物では、帰宅困難者を受入れているビルがあり、自家発電なども設け災害対応となっている。
祭り時には、子どもたちのお祭りにビルを開放している。災害時に建物が利用できるルールや仕組みづくりが必要。

テーブル毎の記録：Bグループ

③上記を実現するための公/民の役割について（エリアマネジメント）

- ・ 公民が連携して、公共空間の利用と維持管理のルールづくりをしていく必要がある。
- ・ イベント時やお祭り時は空間を一括管理し、様々な主体が柔軟に利用できるようにすると良い。
- ・ 植栽の維持管理は公民で連携してできると良い。
- ・ 駅近くの 民間建替えに合わせて災害時に利用できる空間を確保できるように、開発インセンティブ等を与えながら公民で連携していくべき。
- ・ 広いエリアで複数の開発が動くため、行政がしっかりコントロールして進めてほしい。

④その他（今後の進め方について等）

- ・ 特になし

テーブル毎の記録：Cグループ

①公共空間の柔軟な使い方について（祭り時／災害時／日常時）

- ・ 歩行者空間＋交流空間＋防災空間を合わせた一つの新しい表現が必要。
- ・ 緑豊かであることは日常時には魅力的だが、祭り時には支障が生じるかもしれない。高木も含め可動式プランターを併用することで、祭り時にも使いやすいフレキシブルな空間が実現できないか。
- ・ 年に一度のお祭りだけでなく、小規模でも年間にわたって継続的にイベントを企画できると良い。人や物の集まりやすさで発展してきた大宮は、東日本の特産物やお祭りを誘致するイベントを駅前を中心に行えると良い。

②公共空間と都市機能の連動について（まち全体の経済効果の創出）

- ・ エリアマネジメント組織の財源確保は重要。都市空間を活用した広告戦略を検討すべき。
- ・ 商業地としての魅力＋氷川神社の存在が大宮の特徴。駅前の商業集積に氷川神社の存在が重なると、大宮らしい風景になる。
- ・ 氷川神社へつながる道である一の宮通りを緑化し、氷川へのつながりを表現するのはどうか。

③上記を実現するための公/民の役割について（エリアマネジメント）

- ・ 公共空間を使う主体（＝責任性）を明らかにすることが大切である。
- ・ 継続的なイベントの実施にあたっては、企画力のあるエリマネ組織や公的支援が必要。
- ・ 大宮の場合は、日本橋や富山など、地元が主体となっているまちの事例が参考になるのではないか。
- ・ 日本橋は小さな商業集積という点では大宮と類似しているが、大宮の場合は居住者も多い。職住近接などの社会的転換も踏まえ、住民も積極的に関わられるようなエリアマネジメントの在り方を検討する必要がある。
- ・ 大宮のお祭りは年々担い手が減少しているが、そうした取り組みを通して地域との関わり合いの機会が増えることで、大宮の文化が続いていくことが大切。
- ・ 時代の変化に合わせて、常に新しい事が起こり続けることが大宮らしさ。それが大宮の魅力であり、人々を惹きつけてきた。大きな再開発によって、小さな商売やビジネスが生まれづらくなる懸念がある。小商いの文化を支援するような枠組みが必要。
- ・ 緑化の維持コストについて、魅力的な商業地を維持するための緑化だとすれば、受益者負担の考えから商業者が少しでも負担するという考え方もある。仕組みも検討できないか。
- ・ 公設公営や公設民営など、プロジェクトに応じて適宜仕組みを使い分けることで、効果的に事業展開を図る必要がある。

テーブル毎の記録：Cグループ

④その他（今後の進め方について等）

- ・ 駐車場と駐輪場を一体的に扱うべき。

テーブル毎の記録：Dグループ

①公共空間の柔軟な使い方について（祭り時／災害時／日常時）

- ・ 図面上、JRの開発建物が大きく広場の面積を取ることが前提になっているように見える。JR側も開発街区側と同じ民間企業なので、同等の負担を求めたい。
- ・ デッキがある駅はどこも同じように見える、デッキがあると個性がなくなる。
- ・ 祭り時に、御神輿や山車がデッキに当たってしまうのではないかと。バスを分散する、地下に入れるなどすれば、デッキがない空間づくりが出来るのではないかと。
- ・ 3.11では、JRの通路が閉まってしまった。災害時の避難場所に駅前や民間の開発建物側を位置付けるのであれば、JR側も含めるべきではないか。
- ・ 今年の豪雨時もマンホールから水が噴き出た。交通を地下化する場合、浸水対策、排水対策をしっかりと欲しい。内水氾濫に充分留意して欲しい。
- ・ 西口のデッキは常に暗い。光が落ちるように改修して欲しい。また東口にデッキを設ける場合は、光が落ちるように工夫して欲しい。

②公共空間と都市機能の連動について（まち全体の経済効果の創出）

- ・ 駅前に大宮らしい顔を作るように、JR側に要望して欲しい。連絡通路の階高をあげて、改札付近から町が良く見えるようにするといったことも考えられる。また金沢駅のように、広場側に大屋根をかける手もあるが、イニシャルコストのみならずメンテナンスに充分留意して検討をして欲しい。
- ・ 駐車場出入口を歩行者の主要動線を避けた場所に配す方針は良いが、別の通りで交通混雑が発生しないように留意して計画してほしい。
- ・ 各開発建物のB1に商業施設を設けることになると想定される。それらを接続する通路があるとよい。公共側の地下商店街などはもともとせず、各開発建物の地下を連携する動線さえ確保されていればよい。地下レベルの人の流れを強化したい。
- ・ また地下通路の確保と合わせて、連絡通路の先で縦動線を設けて、各階を接続することが考えられる。
- ・ 水素燃料電池などのエネルギー改革を踏まえた取り組みを考えていけるとよい。

テーブル毎の記録：Dグループ

③上記を実現するための公/民の役割について（エリアマネジメント）

- ・特になし

④その他（今後の進め方について等）

- ・これまでのWGで整理した案が出てきていない状況で、どの絵をベースに話をしてよいのか分からない。
- ・ガイドラインには多彩な内容が盛り込まれており、更にWGで提案された項目が色々あるが、その内容が絵には反映されていない。ガイドラインの文言と絵とが整合していないのではないか。ガイドラインは総花的であり、これら項目をトータルで解決するような骨太の方針が必要ではないか。
- ・PTでガイドラインに記載された内容、ここで出された宿題をやりきれぬのか。駅前、東西通路、駐車場など、本来バラバラに検討するのではなく連携すべき要素である。各PTを束ねる方法、場を考える必要があるのではないか。

全体を通しての意見・質問

○まちづくりガイドライン案について

- ・高木を配置すると、糞などの鳥の被害が出る。人通りの多い場所はポット等で緑化した方が良いという意見交換が以前あったが、ガイドラインに反映されないのか。

⇒ガイドライン案では高木を前提としてはいない。既存の緑とのつながりを生むための植栽の配置を記載しているが、ポットの活用等の具体的な内容については今後検討していきたい。

○PTへの伝達について

- ・PTへの伝達事項の内容はGCSプラン2020に関する内容という理解で良いか。各PTのつながりが必要になると思うが、全体はどのように取りまとめていくのか。

⇒GCSプラン2020はパブコメも終わっており、今年度中に策定する。PTへの伝達事項について可能な内容はGCSプランに反映するが、調整に時間がかかる内容もある。PTは来年度以降も続いていくことから、各種会議やGCSニュースでの検討経過の報告を行っていきたいと考えている。

- ・使用されている用語に人間らしさを感じない。行政では難しいかもしれないが、デザインセンターは行政では踏み込めないまちづくりの方向付けを行ってほしい。人は単に歩行者ではなく、目的を持って街を訪れるため、それを満足させる機能や設え等について議論する姿勢が必要である。

○その他

- ・ガイドラインにバリアフリーの位置づけがあるが、西通り線では車いすで歩道に乗り上げるのに苦労する段差がある。バリアフリーを意識するのであれば、検討時に実際に車いすに乗って確かめる等の確認を行いながら整備してほしい。

意見用紙で頂いた意見

Q1.大宮GCSプラン2020（案）について

●商業のまちなど、大事にしたいテーマの軸を通すことが大切

- ・駅前空間には様々な機能が求められるため、その調整は非常に難しいと思いますが、総花的にならざるを得ない部分もありつつ、1つの大事にしたいテーマで軸を通すことが大切だと思います。今日のまとめを聞いて、改めて大宮らしさは商業であり、日本一商売しやすい駅前・まちを本気でつくるのはいかがでしょうか。

●プランの根幹となる戦略をさいたま市が定めてほしい

- ・プラン根幹の地盤が、盤石でないように感じる。街、事業者が主体の開発であっても、地盤と出口戦略を大元のさいたま市で定めて頂くことで、より各整備に整合性のあるいいまちづくりになると思います。

●PT同士のつながりも重要である

- ・現在動いている各PTに関係したそれぞれの検討内容を下ろすのは良いと思うが、各PT同士でどこまで検討しているものが進んでいるのか共通の認識を持って進めているのでしょうか。結局、各PTが専門分野の検討をするのは時間的にも有効だと思うが、最終的にGCSプランの遂行を完遂するのが皆の1つの目標なのでPT同士のつながりは重要と考えます。PT同士のつながりはどうなっているのでしょうか？
- ・各PTで検討課題が出ているが、まとめていくことが出来ないという良いまちづくりはできないのではないかと。

●まちを訪れる人の視点も加え、公民一体で人間中心のまちづくりを目指すべき

- ・人間中心のまちづくりを目指すのであれば、人々は何を求めて何を目的に本都市開発をおとずれるのか。この視点が欠落している。例えば、時系列で人々の動きを例示してみるべきである。その際に、公共空間と民間空間は個別の存在ではなく来街者はこれらを一体として街を使いこなすという視点も重要である。現在、民間開発の内容が明らかでないため、上記を描くのは困難であるが、将来これを一体化する方向性を明示すべきである。なお、この人々には買物等商業目的に加え、業務関係者も含まれる点を忘れないように。

意見用紙で頂いた意見

Q1.大宮GCSプラン2020（案）について

●大宮駅の国家レベルでの重要性について認識し、住民に伝えるべき

- ・やはり、大宮駅の国家レベルでの重要性について、大宮駅の果たすべき社会的責任についてはしっかり住民に伝えた方がよいと思います。そして大きな予算を得て開発を進める重要性についても認識することは必要です。机上の空論にならないために。

●歩行者を駅からすぐに地上に下ろすべき

- ・今日は、駅前広場の柔軟な使い方においてはデッキの話があるが2Fから下にはどうしてもおろさなければならないのですぐ下ろせば良い。

●日常時と災害時など公共空間の柔軟な使い方を検討してほしい

- ・公共空間は限られた場所にしか設置することが出来ないことから、目的を複合的に使用することが考えられる。例えば、駅前広場の空間について、日常は交通結節機能に使い、災害時には帰宅困難者の受け入れに使うことが挙げられる。いずれにしても日常の非日常の二面からまちづくりを議論していくことが肝心と考える。

●辻空間の整備について具体的な検討を進めてほしい

- ・辻空間については、大宮GCSプランにおいていくつかの整備想定箇所が記載されている。特に新東西通路の東西口はその整備箇所とされている。しかし、プランの深度化の検討が進んでいないことから、今後、具体の検討を進めていくべきである。

●デッキ維持費の負担先についても考慮してほしい

- ・デッキの維持にお金がかかるがどこが負担するのか？将来のことも考えてほしい。

●災害についての記載があり良かった

- ・豪雨、暴風、地震についての記載もはっきり示してくださりありがとうございます。

意見用紙で頂いた意見

Q1.大宮GCSプラン2020（案）について

●参道まで人々が歩き回遊するまちにしてほしい

・南地区の準備組合ができ、駅前地区全体が再開発に意向を示した現在、バス停の分散配置（駐車場は駅前とする）すれば、駅前の交通機能がゆるやかになり、駅からデッキを使わずとも、人々を駅前広場に降ろす事が可能になると思われるが、検討をお願いします。駅から街全体に人々が自由に行き来する事ができ、一丁目、二丁目、三丁目、氷川参道、第二産業まで広がる街づくりが可能になると思われる。大宮小学校、旧区役所跡地の開発も考えられている現在、参道まで人々が歩き回遊する街づくりをお願いしたい。タクシーは地下でも良いかも...バスを地下にするのは無理がある。

●プランの構成や書いている内容が分かりづらい

・大宮GCSプラン2020（案）内に書かれている、目的・位置づけ・方向性・まちづくりガイドラインの目的と役割・都市空間形成の目標・整備の指針等と描かれている挿絵の違いが理解できない。また、多くの意見が出ているにも個別計画・駅改良計画（素案）を見ると更に理解できなくなる。多くの住民を意見を聴きながら内容が積み上がってこないのは何故なのでしょう？意見交換するたびにもとの意見がでてきて「またここから」と言う感が非常に強い。

●低木エリアと高木エリアの区分など、緑のあり方について検討してほしい

・緑のあり方についてじっくり検討して欲しい。低木エリア、高木エリアを区分する。

●東西通路の拡幅について検討してほしい

・東西通路の計画以上の拡幅はできないのか。さいたま新都心くらいあればいい。

●少しでも早く進めてほしい

・少しでも早くまず進めて欲しい（具体的に）

●PTの意味について理解できた

・やっとPTをプロジェクトチームと記されていたのでよく分かりました。

意見用紙で頂いた意見

Q1.大宮GCSプラン2020（案）について

●先端技術の活用で駐車場を減らし、駐輪場や託児所を設置義務に加えることはできないか

- ・新設の区役所をみると駐車場は余裕があり、駐輪場が不足気味。東口駅前が必ずしも同様になるとも思えないが、駐車場の設置義務を少なくして駐輪場や託児所を設置義務に加えることは可能か。スマートシティを目指す大宮としては、タクシープールやバスターミナルに対する先進の技術革新で解決できないものか。

●トータルコーディネーターが必要ではないか

- ・トータルコーディネーターは必要ないのかな。

●バックアップシティについての検討も深度化してほしい

- ・今の進行状況で国交省の求めるバックアップシティの大宮は出来るのかな。

意見用紙で頂いた意見

Q2.今後の進め方について

●地元意見に加え来街者の特性など客観的なデータも取れると良い。

- ・運営や取りまとめいつも大変お疲れ様でございます。地元の意見と共に広く来街者の特性など客観的なデータやアンケートを取れたらよいと思います。

●民間との連携について検討してほしい

- ・公共施設（交通、歩道等）はもう言いつくしているであろうから、民間開発との連携方法および一体となった街づくりの計画策定方法を明らかにしていただきたい。

●WG意見を上部会議にどう伝えるのか分かりやすかった

- ・デザイン調整WGで取りまとめた意見を上部会議にどう出すのかを示して頂いたことは、とても分かりやすく、良い情報共有であったと思います。

●会議の出席者以外への宣伝も大切

- ・この会議に出席する人は意識が高いからよいのですか。ここでの意見とかを広く市民に広報する責任もあると思います。宣伝、理解は大切です。

●ポストコロナであってもリアルな体験や発見ができる街にしてほしい

- ・人口減少の将来の大宮にとっても東口駅前の商業の活性化は税収の減少対策としても必要不可欠なものと思います。ポストコロナであってもリアルな体験は人間の本能です。アマゾンで物を買って、Uber Eatsで食べてリモートで仕事をするだけで幸せな人生にはなりません。手で触り、肌で感じ、足で歩き目で見て共感し、感動する。着飾って出歩く街角や風情のある路地、幾度でも行きたくなる街、新しい発見や経験の出来る様な街にしたい。

意見用紙で頂いた意見

Q2.今後の進め方について

●PT等の他の会議体と連携し、フィードバックを今後活かしてほしい

- ・今回は前回までの振り返りをして頂けたので、新たな検討問題が明確化されて良かったと思いました。今後も私達の出した意見が各PTに下ろされた結果、どう進んでいるのか等のフィードバックをしながらそれを踏まえて次の会議に活かして欲しい。
- ・第4回デザイン調整ワーキングの中でも意見が出ていたが、デザイン調整ワーキングから各プロジェクトチームへ提言していくことになったが、各プロジェクトチームからの検討結果が見えるようにしてもらいたい。結果的にこれが双方向での意思疎通に繋がるものとする。
- ・11/27新東西通路PTに出席し、PT出席メンバーからは新東西通路だけの資料では関連が解らないとの意見がありました。当然のことだと思いましたが、大宮GCS推進会議、デザイン調整ワーキング会議、合同部会、各PTがバラバラの感じで連携が図られていないのがはっきりしてきたと思われます。また、PTメンバーはこれで良いのでしょうか？PT=プロジェクトチーム（専門家会議）と称されていますが、地元住民があまりにも少なく、大宮東口（地元）の現状を理解していないヒト集団で物事を検討していく怖さを強く感じました。年度内のデザイン調整ワーキング会議が終わり、次回の新東西通路PTは3/10日何かピンと来ません。おかしくありませんか？大宮グランドセントラルステーション化構想、大宮GCSプラン2020（案）等に対し、大宮駅東口駅周辺（500m圏内）住民に対し説明会や意見交換の場をつくるべきと考えます。このまま進むとするならば、住民側からの“大宮GCS住民検証会”的な会の発足の必要性があると思われます。行政資料にある「地元、市、鉄道事業者、三者が密に連携し、三位一体による構想の推進を図ります」に反するのではないかと強く疑問を抱きます。

●人を集める目的物としての東日本対流拠点形成を市の事業として取り組んでほしい

- ・人を集める目的物としての東日本対流拠点形成を市の事業として取り組んでいただきたい。

●会議の進め方はOK

- ・会議の進め方はOKです。